



# 教員評価・フィードバックの在り方と 教員の質の向上について

TALIS2013の結果から

平成26年6月26日

国立教育政策研究所 所長  
大槻 達也

# 公的な教員評価の結果の活用 (TALIS2013の結果から)

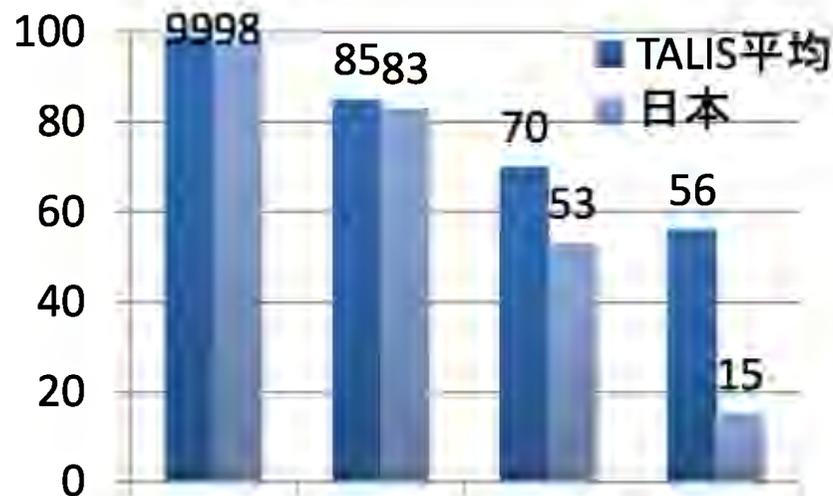
〔 公的な評価とは: 教員の仕事を校長等が審査することであり、公式な手法によるもの 〕

・TALIS参加国では、ほとんどの教員が公的な評価を受けている。

公的な教員評価を受けたことがない教員 TALIS平均7.4% 日本3.8%

●ほとんどの教員について、評価結果が授業改善に活用されている。

●職務責任の変更や昇進見込みに影響がある教員は他に比べると少ない。



※教員評価の結果を受けて各項目が「時々」「頻繁に」「常に」行われていると回答した校長の学校に所属する教員の割合

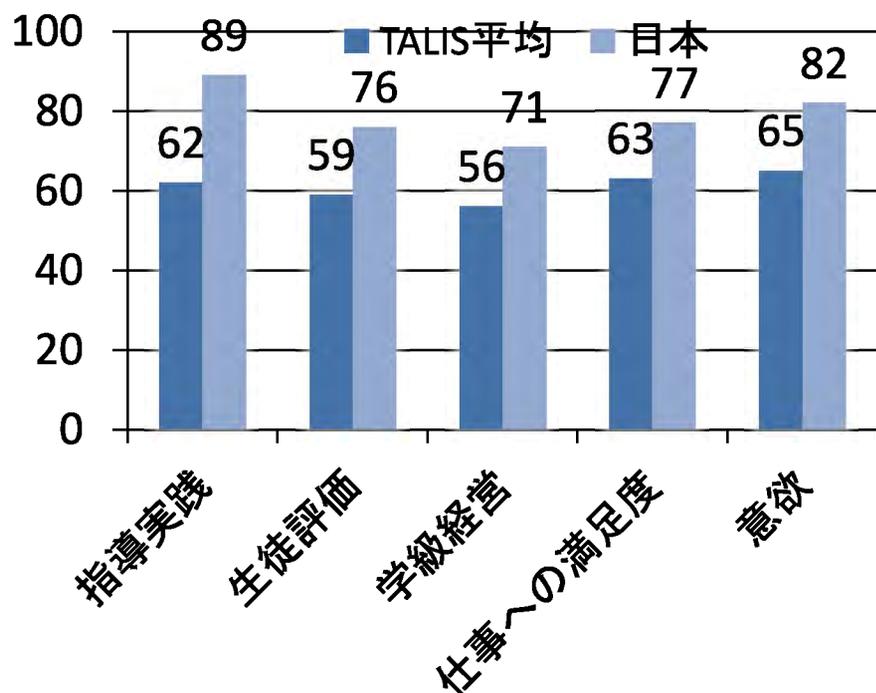
Source: TALIS2013 Table5.3

# 教員へのフィードバックが与える効果 (TALIS2013の結果から)

フィードバック: 授業観察や、指導計画や生徒の成績に関する議論などを通じて、教員の指導状況について様々な関係者との間で行われるあらゆるコミュニケーションであり、非公式なものと同公式なものいずれも含まれる

・TALISの全参加国では、多くの教員がフィードバックを受けている。

勤務校でフィードバックを受けたことがない教員 TALIS平均12.5% 日本6.3%



●多くの教員の指導実践や意欲に好影響を与えている

<日本の特徴>

校内研修、**教員間**の授業研究等が広く行われており、多様な供給源からフィードバックを受けている

授業見学を行ったことがある員

TALIS平均55% **日本94%**

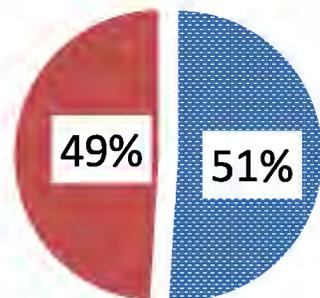
※各項目に良い変化を「ある程度」「大きく」もたらしていると回答した教員の割合。 Source: TALIS2013 Table5.7

# 評価・フィードバックの制度に対する教員の認識

(TALIS2013の結果から)

## 教員の認識

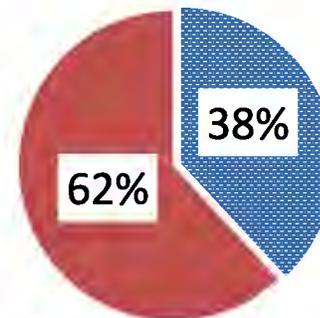
大部分が管理上の要求を満たすために行われる



- 当てはまる・非常に良く当てはまる
- 当てはまらない・全く当てはまらない

(TALIS平均)

最も良く仕事をしている教員が最も認められている(報酬、研修)



- 当てはまる・非常に良く当てはまる
- 当てはまらない・全く当てはまらない

(TALIS平均)

## 仕事への満足度との関係

・全参加国において、「評価やフィードバックの仕組みは大部分が管理上の要求を満たすために行われる」と回答した教員ほど、仕事への満足度が低い傾向にある (TALIS2013 Table7.13)

→ 評価・フィードバックの制度の効果を教員が実感できるようにすることにより、教員の満足度や意欲を高めることができる可能性

# 日本における教員評価の取組

○教員評価システムについて、全都道府県・指定都市教育委員会（全67教育委員会）で導入

## ○教員評価システムの概要

- 教員が管理職との面談等を通じて、あらかじめ設定された標準職務遂行能力あるいは自ら設定した目標について、PDCAサイクルに基づき教員一人一人の能力や業績を適切に評価（目標管理型の評価）
- 教員評価を通じ、各教員の資質向上を図るとともに、学校組織の総合力を向上
- 評価結果を人事や給与等の処遇へ適切に反映

# 日本における教員評価の成果と課題

## ○成果

- ①旧来の勤務評定に比較して、評価が透明化・双方向化
- ②授業観察等の結果を踏まえた面談など校長と教員の意思疎通

## ○課題

- ①評価者の資質向上、評価方法の見直しによる評価の改善
- ②評価結果の人事や給与等の処遇への反映

評価結果の活用状況(教育委員会数)

(平成25年4月1日時点)

	管理職に対する評価	教諭等に対する評価
研修	27/67	28/67
人材育成	41/67	47/67
昇任	24/67	23/67
昇給	24/67	19/67
勤勉手当	22/67	16/67

※ 先般なされた地方公務員法の改正により、2016年5月14日までに教員評価の実施及び評価結果の人事管理の基礎としての活用が、法律上、義務化されることとなる。

文部科学省 調査

# 評価やフィードバックの制度と教員の資質向上

教員の職能成長や意欲の向上を促すために、評価やフィードバック制度をどのように活用できるか

## 議論の観点 issue brief より

- 評価やフィードバックを教員の昇進により強く関連づけるためにどうするか。それが教員の意欲や業績の向上にどう役立つか。
- 評価やフィードバックの結果を職能開発計画に活用するためにどのような効果的な選択肢があるか など